

G-1 イギリスにおける家政学教育の最近の動向  
宇都宮大教育 佐藤カツコ

目的。イギリスの家政学教育は、長い間いわゆる家事技術の訓練を中心とした実用的な教育内容が主であったが、今日でもこの伝統は変わっていないであろうか。ことに1963年のロビンズ報告以来イギリスの高等教育全般に於ける反省と改革の動きの中で、家政学教育はどのような変化を示してきているかを知ろうとした。

方法。イギリスにおいて家政学関係の教育を行っている教育カレッジおよび大学のうち主なところを訪問しその実態を見聞するとともに、学校要覧・カリキュラム一覧などの資料により、教育内容の現状を検討した。

結果。1960年代の後半より最近にかけて、家政カレッジと大学のいずれも、家政学教育の新しい変化を示してきている。家政カレッジの場合は、①すべて教育カレッジ (College of Education) と改称し、教育内容のレベルアップがはかられ、修了者は学位を得ることができるようになった。②教育内容に関しては、家事技術の訓練が大幅に減少し、家庭および家族生活に関する総合科学的視点をもちようになってきた。また現代社会に関する問題がかなりとり上げられ、社会科学的視点が生かされてきた。

大学の場合は、①自叙科学中心の伝統に加えて、経営管理 (management) に関する社会科学の分野がつけ加わってきた。②家庭および地域社会に関する総合的・専門的な家政学教育をめざす新しい大学が誕生した、といった動きがみられる。また家政学教育は、現代の家庭および地域社会に関する問題ととりあつかい、産業・商業・社会福祉方面の専門的職業人の育成を行うという姿勢を、明確に持つようになってきている。